橿原市立晩成小学校学校だより
晩成っ子
9 2026月号
tel　0744（22）6121
fax　0744（23）6122
橿原市小房町１−５４

祝！！世界遺産登録

７月に、橿原市や近くの明日香村、桜井市にある「飛鳥・藤原（あすか・ふじわら）の宮都（きゅうと）」が、世界文化遺産に登録されました。
特に、「藤原宮跡」は、学校から遠足で出かけたり、秋にはコスモス畑を見に行ったりと、橿原市の人にとっては親しみのあるとても身近な場所です。今では広い野原のように見えますが、今から1300年前、ここには日本で最初の本格的な「国の中心（都）」が作られました。法律が整備され、お金の仕組みが作られ、「日本」という国の形が完成したのです。つまり日本のスタート地点が、まさにみんなが暮らしている橿原市なのです。

命のバトンを通じて、藤原京の人々と今を生きるわたしたちがつながっていることに感動します。昔の人が大切に残してくれたからこそ、今わたしたちはこの素晴らしい遺産を見ることができます。今度は、わたしたちがこの宝物を大切に守り次の世代に引き継いでいく番です。



「どんなものを食べて、どんな暮らしをしていたのかな？」
「昔も、飛鳥川で遊ぶ子どもがいたのかな。」
「畝傍山や耳成山、香久山には登ったのかな。」
「昇る朝日や沈む夕日を見ながら、どんなことを考えていたのかな。」
大昔このあたりに住んでいた子どもたちも、晩成っ子のように、将来の夢をもちながら、からだを鍛え（つよく）、よく勉強し（かしこく）、ときにけんかをすることがあっても、友だちと思いやり合って（やさしく）、過ごしていたんじゃないかと思います。
図書室の本で調べたり、遺跡や博物館に行ったり。知れば知るほど、子どもたちはこの橿原市がもっと好きになるのではないでしょうか。

クイズ 晩成小学校の校章。「晩」のまわりを囲んでいるのは何でしょう。　こたえは右下

そりゃ、よいと、よいや、まっか、どっこいさのせー



８月23日24日と、本校の運動場を盆踊りの会場にしながら、愛宕祭が開かれました。「江州音頭」は、昔から地域の皆さんに親しまれているそうで、大勢の人がやぐらを囲んで一つの輪になりながら踊っておられました。世代を超え、地域のお祭りを絶やさぬよう大切にする姿はとても素敵だと思います。
ちなみに掛け声は、「宵と宵や真っ赤（夜から日が昇る朝まで徹夜で）どっこさーのせー（掛け声）」で、「オールナイトで盛り上がろう！」の意味があるそうですが、お祭りは両日とも21時までででした(^^)。




学習ボランティア

９月の５，６年生の家庭科では、ミシンを使う実習があり、学習ボランティアの皆さまがお手伝いに来てくださいました。例年、いろいろな学年の学習や行事に関わってくださっています。地域の方の温かい見守りがあることは、子どもたちの学びの支援にとどまらず、心の成長にとっても本当にありがたいことだと感謝しています。

・自分を大切にし、協力して責任をもって行動できる
・学年にかかわりなく、お互いを大切にする
・いろいろなことに挑戦し、興味をもって取り組む
・地域のことを知り、地域を大切にし、発展させようとする　　引用：市HP「地域子ども教室」

月に１回程度、いろいろな趣向を凝らしながら、地域の子どもたちの活動を支援し、成長を見守ってくださっています。



９月12日(土)
本校体育館での活動の様子

9月1日は防災の日です



学校には、消火器、火災報知器や防火扉、避難はしごなど火災から子どもたちを守る設備があり、毎年専門業者に安全点検をしていただいています。
夏季休業中、３階からの避難ばしごを設置し、職員が実際に滑り降りて確かめました。備えあれば憂いなしとは言うものの、子どもたちがこのはしごを利用しなくて済むのが一番です。今後も火災発生を未然に防ぐための危機管理に徹します。



２学期始業式では、無事に２学期を迎えられたことを喜ぶとともに、９月１日「防災の日」についてお話しました。
関東大震災で甚大な被害を受けたのが大正12（1923）年９月１日であることは有名ですが、この時期は立春から二百十日といわれて台風の被害を受けることが多く、昭和34（1959）年には伊勢湾台風により多数の死者や行方不明者が出たことから、「防災の日」として昭和35（1960）年に政府によって正式に制定されました。
この機会に、ご家庭でも天災時の備えについて、お子様と話し合っていただけたらと思います。



八つの木（八木）が、花模様を描きながら、晩成小学校の「晩」という文字を囲んでいます。
この校章が決まったのは、大正４（１９１５）年で、一般の人に公募された中から選ばれました。
「太子伝玉林抄」という聖徳太子の伝記に、”聖徳太子は、斑鳩の宮より斜に曽我橋を渡り、八木の里を経て橘宮に通いたまう”と書かれていたことから、制作者は「八木」の地名を誇りに思い、校章の中に校名とともに組み込みたいと願いを込めたそうです。一見すると桜の花にも見える優雅なマークは、昔も今も、私たち自慢の学校のシンボルとなっています。



各種教職員研修について



写真は、不審者対応に向けた研修の様子です。この研修では、不審者役の先生が事前にはルートを明かさずに校内に侵入してくるのに対し、誰がどこでどのように対応したか、ビデオに撮影したものを見ながら、対応の適否について協議しました。しかし、侵入を許さない環境づくりが最も重要だと、警察からは日頃より指導されています。

保護者・地域の皆さまには、ご不自由をおかけしますが、今後も以下についてご協力をお願いいたします。

学校にお越しの際は、**正門よりインターホン**を利用し、

①「○年○組○○○○の保護者です。○○の用事で来ました。」とお話ください。

②モニターで確認後、解錠します。開けた扉は中に入られた後**「カチャ」というまでしっかり閉めてください。**

③しっかり閉まっていない場合、後続の人はインターホンなしで入ることが可能となってしまいます。

●③の場合、職員室のブザーが鳴り、開いたままになっていることが知らされます。職員はすぐに扉を閉めに走りますが、この少しの時間を不審者に狙われないとも限りません。



7月21日　生徒指導（不審者侵入想定）研修
7月22日　授業研究（自己調整学習）研修
7月28日　人権（ハンセン病）研修
8月　5日　アレルギー対応（エピペン）研修
8月　6日　特別支援（通級教室）研修
9月　2日　夏の研修報告会（個別研修の内容共有）
9月　3日　コンプライアンス（法令遵守）研修

文部科学省は、およそ10年ぶりとなる次期学習指導要領の改訂に向けた審議を進めていますが、**小学校は2030年度から全面実施になる予定です。以下が改訂のポイントです。**

- **情報教育の大幅な拡充**
- **カリキュラムの柔軟化（調整授業時数制度）**
- **デジタル教科書の本格導入**
- **多様な学びへの対応**

学校には、子どもたちの健全な成長とよりよい授業づくりのため、教職員がそれぞれの役割（校務分掌）に分かれて活動する組織があります。晩成小学校では、研修部や教務部が中心となり、新しい学力観に基づいた授業についての研究を進めています。県や市の指導主事より助言を受けながら、日頃の放課後や長期休業に校内研修を実施し、若手もベテランも切磋琢磨しながら研鑽に励んでいます。

多様な学びへの対応については、情報管理部、人権教育部、特別支援教育部などの働きが重要となります。各部は「個別最適な学び」に向けた他校の取組を紹介したり、本校児童の具体的な姿に基づいたプランを示したりしながら、晩成の教職員全員が同じ方向を向き、目の前の一人ひとりの子どもの学びについて考えていけるよう、企画運営しています。



最後まで諦めない粘り**づよさ**。学びの主体は自分だと意識させています。



かしこさ　受け身にならず、習ったことを応用できるよう声かけしています。



やさしさ・かしこさ　違いを認め合い、しなやかな心で共生する力を育んでいます。



かしこさ　これまで経験したことを通してそれぞれが考え、意見を出し合います。



つよさ・かしこさ　たくましい心とからだをつくり、協力や工夫を学びます。



やさしさ　移動では、時々立ち止まることで自分を見つめる機会をもちます。